

JA全農ウィークリー

6-7面

農泊の事業化へ取り組み本格化

(くらし支援事業部)

2面

日本産米使う宅配
「和弁当」販売スタート（全農インターナショナル香港株）



香港で販売を始めた「和弁当」(2面)



第14回「酪農の夢」コンクールで入賞した
皆さん(8面)



取り組みが本格化する農泊の事業化(6-7面)

- 2 新型コロナウイルス対策徹底し対面方式で
「秋の朝市」(富山県本部)
- 3 「岡山農畜水産物マルシェ
～おかやまるしえ～」開催(岡山県本部)
- JAグループ宮城
「農業機械大展示会2020」開催(宮城県本部)
- 4.5 コロナ禍での農家応援や消費喚起
今年度の取り組みを紹介(広報・調査部)

- 8 「とくしまブランドde簡単料理コンテスト
2020」開催(徳島県本部)
- 第14回「全農学生『酪農の夢』コンクール」
開催(酪農部)
- JAタウンショップ紹介
- JAしみずアンテナショップきらり(静岡県)

**Web
限定**

「東北六県絆米」新パッケージへ
リニューアル（全農東北プロジェクト）

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



日本産米使う宅配「和弁当」販売スタート

日本産農畜産物の輸出拡大を目指す

全農インターナショナル香港(株)



香港で販売を始めた「和弁当」(右)と付け合わせの日本産半熟煮卵も好評の弁当



導入したガス式炊飯設備

全農インターナショナル香港(株)は11月、香港食品大手の四洲集団有限公司と業務提携し、日本炊飯センター稼働と「和弁当」の販売をサポートしています。

香港中心街は飲食店が少ないため、昼食時には「ランチ難民」が発生するようになるとがしばしば。そこで、四洲集団有限公司はそのような方々をターゲットとした日本プレミアム感のあるオフィス宅配弁当事業を始めました。特徴は日本からガス式炊飯設備を導入した「ガス炊

きごはん」(香港では蒸すのが一般的)で、日本産の半熟煮卵も大変好評です。そのほか全農の特徴を出すため、リンゴなどの果物やJAジュース・お茶なども一緒に販売しています。

今後は、今回炊飯設備を導入した給食センターから市内約100校・約2万8000食提供している学校給食についても、日本米給食の提供を視野に入れています。全農はこのような取り組みを通じて、日本産農畜産物の輸出拡大に努めます。

News!



新型コロナ対策徹底し対面方式で「秋の朝市」

JA富山市も協力し、富山県産農畜産物をPR

富山県本部



人気だった県産野菜コーナー



多くの来場者でにぎわうJA富山市のテント

富山県本部と株式会社JAライフ富山は11月21、22の両日、JA富山市と協力し、富山市の富山県本部生活センターで「秋の朝市」を開きました。2日間で1100人を超える多くのお客さまが来場しました。

この取り組みは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で各種イベントが中止になり、県産農畜産物をPRする機会が減っていることを受けて行いました。今回は、「少しずつ日常の社会経済活動をとり戻していこう」との想いのもと、7月に開いたドライブスルー方式から対面販売方式とし、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を

徹底して開きました。店頭には県産野菜・果物をはじめ、県産牛・豚肉、「富山産」の米焼酎の他、エコープマーク品など約80品目の商品を取りそろえました。JA富山市も、とれたて野菜の販売や農機具・自動車の特別展示を行いました。また、冬支度に向けて縄やスタッドレスタイヤなどを特別価格で販売しました。



「岡山農畜水産物マルシェ ～おかやまるしえ～」開催

県産農畜水産物の消費拡大目指す

岡山県本部

岡山県本部は11月15日、JAグループ岡山・JF岡山漁連と「岡山農畜水産物マルシェ～おかやまるしえ～」(後援:岡山県)を岡山市のJR岡山駅東口駅前広場で開きました。

このイベントはコロナ禍で苦労されている農家・生産者を支援することを目的として実施しました。

当日は岡山県産の米や野菜・果物、肉、水産物、さまざまな加工品などが並び、岡山県本部は肉、卵、牛串焼きを販売しました。さらに里海米「きぬむすめ」(新米2合パック)を無料で配布し、大変好評でした。岡山県

産農畜水産物の消費拡大に加えて、来場者に岡山の秋の味覚を存分に味わっていただけたイベントとなりました。

このイベントの売上金などの収益金は、後日実施予定の「お花の無料配布」の原資とし、さらなる岡山県産農畜水産物の消費拡大に取り組みます。



笑味ちゃんも登場し、里海米「きぬむすめ」を無料配布



牛串焼きの販売コーナー



JAグループ宮城「農業機械大展示会2020」開催

コロナ禍で生産者待望の県統一展示会

宮城県本部

宮城県本部は11月18、19の両日、仙台市の夢メッセみやぎで「JAグループ宮城 農業機械大展示会2020」を開きました。

コロナ禍での初の県統一展示会ということで、密にならないレイアウトや来場者・スタッフ全員の検温など、来場者だけでなくJA・出展メーカーも安心して参加できるよう感染症対策を

徹底して実施しました。また、今回はバス動員・食事の提供・ステージイベントを実施しないなど、これまでにない形での展示会となりました。

コロナ禍での開催で不安もありましたが、1557人に来場いただき、「展示会の開催を待っていた」「実機を見て購入を決めたかった」など生産者にとって待望の機会であったことがうかがえました。



感染症対策を徹底して開いた農業機械大展示会

宮城県本部とJAグループ宮城は今後も農家組合員の安全を第一に考えながら、生産者が求める情報発信を進めていきます。

コロナ禍での農家応援や消費喚起、食と農の魅力発信

今年度の取り組みを紹介します

全農は、広報活動を通じた社会貢献(SR)や国産農畜産物の消費拡大に取り組んでいます。コロナ禍の中でも安全・安心な農畜産物を届けてくださっている農家の皆さんへ感謝と応援の気持ちを届ける企画「農家応援企画」や、新型コロナウイルスの影響を受ける農畜産物の消費喚起、アイドルグループと連携した幅広い層への食と農の魅力発信など、今年度の取り組みを紹介します。【広報・調査部】

農家応援企画

コロナ禍でも安全・安心な農畜産物を届けてくれる農家の皆さんに感謝と応援の気持ちを届けることを目的に、「響け! 大地のエール『#農家の皆さんありがとう』プロジェクト」を実施。全農所属の卓球日本代表・石川佳純選手がプロジェクトの意義や農家の皆さんへの感謝と応援の気持ちを動画で伝え、この想いに賛同した千葉県・習志野高校吹奏楽部の皆さんが全農のCMソング「大地のエール」を力強く演奏する動画を公開、累計66万回再生されています。

また「全農広報部スポーツ応援」公式Twitterでは、全国47都道府県のお米やお肉などの特産品が当たるプレゼントキャンペーンも実施しました。

動画はこちら



動画でプロジェクトの意義や気持ちを語る石川選手

「大地のエール」を演奏する習志野高校吹奏楽部のみなさん

コロナ禍での消費喚起 和牛や花の消費拡大キャンペーンを展開

新型コロナウイルスの影響を受け、畜産物や生花などの需要が落ち込み、それらの消費喚起を目的に、キャンペーンを実施しました。

8月29日「焼肉の日」

8月26日にメディアを対象とした「和牛サミット」を開催。コロナ禍における和牛を取り巻く現状を伝えることを目的に和牛の生産から流通加工、販売に関わる業界の方々によるトークセッションを行いました。8月29日「焼肉の日」は自宅で焼き肉を楽しん

でもらおうとグラフィック広告「焼肉の土俵」を主要スポーツ紙に掲出。この広告にはこの夏の頑張りを労いごほうびに和牛で元気をつけて欲しいという願いをこめた「じぶんに、ギュー。」マークも登場。今後もこのマークを長期的に活用していきます。



「焼肉の土俵」広告を敷いて自宅で焼肉

11月29日「いい肉の日」

11月29日はBSテレ東が実施する「BSテレ東 いい肉の日」に全面協力。BSテレ東ではこの日は朝から晩まで一日中「肉」をテーマとした特別編成を行いました。番組からの取材依頼

への対応やBSテレ東と合同でプレゼントキャンペーンも実施。実演販売士“ボス水野”さんを起用し和牛のおいしさや、JAタウンに開設した特設ページを紹介するCMを制作し視聴者の皆さんをJAタウンへ誘導しました。



実演販売士“ボス水野”さんが出演するCM



JA全農COUNTDOWN JAPAN "HanaUtaFes"

花の需要喚起を目的に、ラジオ局TOKYO FMと合同で「花」にまつわるアーティストが集結するオンラインの夏フェス「JA全農COUNTDOWN JAPAN "HanaUtaFes" (ハナウタフェス)」を9月27日に開催しました。「あなたの代わりにお花がライブに参加」をコンセプトに、特設サイトで花を購入すると、アーティストと一緒にライブを彩った花が後日、自宅へ配送される仕組みをとりました、JAタウンでは特設ページを開設し、会場を彩る花を販売しました。また、花の消費拡大に向けたTOKYO FMとの合同キャンペーンも実施しました。

花にまつわる曲を演奏するchayさん

虹コンと“食と農の魅力”を発信

昨年10月に「全農の食の応援団」に就任した虹のコンキスタドール(以下、虹コン)と、7月からYouTube番組「全農presents届け!ファンファーム」(全12話)を放送しています。番組では虹コンメンバーが田植えや稲刈り、野菜の収穫などの農作業、直売所訪問、お米の収穫や販売など、さまざまな経験を通し、食と農の大切さを伝えています。

次号12月21日号は、JA全青協・田中主介会長との対談をお届けします。

最終回・第12話「感謝のライブ編」はこちら



第3話で野菜の播種や収穫を体験



直売所で購入した食材で料理対決(第5話)



第9話で稲刈りを体験



虹コンが育てた「虹米」を直売所で販売(第11話)

全農はこれからも、広報活動を通じた農業への理解促進や国産農畜産物の需要喚起などに取り組めます。

農泊の事業化へ取り組み本格化

空き家改修し拠点化、
ポータルサイト充実、他団体と連携も



全農は、農山漁村に長期滞在し、その地域の自然や伝統文化、農林漁業などに触れ合い、その地域の人の交流を楽しむ「農泊」の取り組みを本格化させています。地域に人と消費（需要）を呼び込み、地域経済を活性化させることを目指します。

【くらし支援事業部】

全国複数地域で事業化を検討

全農では令和元年度から3か年の事業計画で、重点施策の二つに「元気な地域社会づくりへの支援」を掲げました。その具体策として盛り込んだのが「農泊」の事業化です。これに基づき、令和2年度からは各地に事業の提案を本格化させており、複数地域と事業導入の検討を進めています。

空き家を改修し、活性化の拠点に

具体的には、地域のJA組

合員の方々が管理に悩んでいる空き家を、農泊に活用できる施設に改修し、県・地域のJAグループと連携しながら全農と農泊の専門業者で施設の運営を支援することで、空き家を所有する組合員の新たな収入源にしたいと狙っています。空き家を宿泊できるように改修して国内外の観光客などを受け入れ、地域で農作業を体験してもらったり、農産物直売所で地元産品の買い物を楽しんでもらったりして、地域経済の活性化につなげたい考えです。

またコロナ禍の中で働き方改革として「テレワーク」が急速

に拡大しています。それにより地方へのワーケーションやお試し移住、2拠点居住、さらには移住、定住という流れが出来つつあります。その際必要となる「1棟貸切宿泊施設」のニーズは高まっており、一部には昨年対比300%の売り上げとなっている例も。空き家をこうした「1棟貸切宿泊施設」に改修し事業化に結び付ける、非常に大きな好機が到来していると言えます。

ポータルサイトを充実 コラム、動画も発信

昨年10月から運営を始めた農泊ポータルサイト「農泊・net」の充実も

図っています。全国各地の農村の宿や農作業が体験できる施設、魅力的な地域の食を味わえるお店などを掲載、宿泊予約も同サイトから行えるよう改修中です。こうした各地の農泊施設の情報を徐々に増やしている他、農

泊の魅力を伝えるコラムや動画の発信も始めました。「農泊ってどういうもの？」という素朴な疑問から、「こんな近くで農泊を楽しめるんだ！」という声にも応えられる内容です。



農泊ポータルは
こちらから



<https://nohaku.net/>



農泊.netのトップページ

取り組み加速へ4団体が連携

全農は農泊の推進へ、今年3月には全農と農林中央金庫、農協観光、日本ファームステイ協会の4団体が連携協定を結びました。各団体と連携して、さらに取り組みを加速させます。

農林中央金庫

組合員の所得向上や遊休地域資源の有効活用、関係人口の創出につながる農泊事業を「地域活性化に資する重要な取り組み」の一つと位置付けています。当金庫は、農泊事業実践協定を基軸として、JAバンクの全国的なネットワークと幅広い顧客基盤を生かしながら、①農泊事業に取り組むJA組合員等への資金対応（農泊ローン等の商品企画・改善）、②農泊事業者と取引先企業とのビジネスマッチング、③農泊地域への送客を目的とした取引先企業等との連携コーディネートに取り組んでいきます。

一般社団法人 日本ファームステイ協会

光は、「農泊」に取り組む地域と連携し、地域資源を活用した着地型商品の開発・販売に取り組む、地域の活性化に貢献していきます。

全国で農泊事業に取り組む地域の事業者と自治体の農泊推進を支援する活動を行っています。専門家の知見を集め、地域づくりから商品開発、販売集客、プロモーションなどのノウハウ提供や研修、シンポジウムなどを開き多角的にサポート。「コロナ時代にも対応していける農泊のあり方を、事業者の皆さんのみならず、行政や政治に対しても提言し、JAグループの皆さんの農泊推進に貢献していきます。

株式会社農協観光

農泊地域では交流人口を増やすため、農業体験や郷土料理などの「食」と「農」に関する資源を磨き上げ、観光客の獲得に向けた取り組みを開始しています。昨今はコロナ禍の影響や働き方改革などの社会変容によって、ワーケーションや半農半Xなどの新たな地域との関わり方も注目されてきています。農協観



4団体連携イメージ



「とくしまブランドde簡単料理コンテスト2020」開催 高校生が「徳島県産生いたけ」で朝食レシピを競う

徳島県本部が協賛する「とくしまブランドde簡単料理コンテスト2020」の最終審査が11月23日、徳島市の四国大学短期大学部で開かれました。【徳島県本部】



当日は1次審査を通過した高校生6組が90分間で実際に調理を行い、試食審査で最優秀賞など各賞が選出されました。

このコンテストは高校生を対象に、高校生自身が「食べてみたい、作ってみたい」と思えるような、忙しい朝でも簡単に作れるワンプレート朝食レシピを募集したものです。レシピは野菜の総使用量が120g以上であることに加え、徳島県産農産物を使用して栄養バランスがとれていること、指定された徳島県産ブランド食材を使用することを条件としています。5年目の開催となる今年の指定食材は、徳島県産の「生いたけ」でした。

徳島県本部は食育活動の一環としてこのコンテストに協賛し、毎年指定食材を提供しています。



90分の持ち時間で朝食レシピに腕を振るう高校生



出来上がり最終審査を待つ六つの作品

第14回「全農学生『酪農の夢』コンクール」開催

若者らしい情熱や
大きな夢つづる

酪農部は11月18日、今年で14回目を迎える「全農学生『酪農の夢』コンクール」の発表と表彰式を東京・大手町の「アグベンチャーラボ」で開きました。【酪農部】

酪農や畜産などを学ぶ学生を対象にした「酪農の夢」コンクールは、日本の酪農の未来を担う学生たちに、若者らしい「情熱」や「大きな夢」をつづってもらい、将来への希望を膨らませてもらうと同時に、自分自身を見つめ直し、これからの学習意欲や就農意欲を高めてもらうことを目的に実施しています。

今年はコロナ禍にもかかわらず146作品の応募があり、最優秀賞には京都府立農芸高等学校の宅間加鈴さんの「じいちゃんのおもつな 繋ぐ私の夢〜」が選ばれました。

全農のHPでは入賞者9人の「酪農の夢」を本人の朗読で紹介しています。ぜひ、お聞きください。



酪農部の深松聖也部長から表彰を受ける最優秀賞の宅間さん



9人の受賞者(うちリモート出席4人)右と担当の先生方



JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

JAしみずアンテナショップきらり
(静岡県)

駿河湾に面した日当たりの良い南斜面で育った、静岡生まれのイチゴ「紅ほっぺ」と「きらび香」を一度に楽しめるセットです。

静岡県産イチゴの代表格「紅ほっぺ」は、甘みと酸味のバランスが絶妙です。「きらび香」は2014年に登場した新品種。キラキラとした宝石のような輝きに、品の良い甘みとフルーティーな香りが特長です。

各2パック(計4パック)でお届けします。イチゴの食べ比べを楽しんでみませんか。



紅ほっぺ&きらび香 デラックス 各2パック
……4500円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちら



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。